

説教要旨「洗礼ってなんだろう」



マルコによる福音書 1章9～11節

洗礼はキリスト教の入信儀礼とされていますが、もともとは洗礼者ヨハネの洗礼を受け継いだのだらうと考えられます。洗礼者ヨハネは、人々をヨルダン川の水に沈める形で洗礼を授けていました。そして、このヨハネが授けた「洗礼」は、「悔い改めの洗礼」であると言われています。本来、罪にまみれたわたしたちが受けるべき悔い改めの洗礼を、何よりもまず、神の子であるイエス様が受けて下さったのがここでの出来事です。そして、ヨハネから洗礼を受けられたイエス様が水から上がられると、「天が裂けて、霊が鳩のように降るのをご覧に」（10節）になりました。“天が裂けた”それは、神の国と地上との隔たりが裂けたということであり、神の国が近づいたことの象徴的な出来事です。

イエス様は、十字架の死と復活を予告を三度目になされた際、これからご自身の受けられる苦難を「洗礼」（10:38）だと言われています。神の独り子であるとイエス様が、神から見捨てられ、十字架で死なれたのです。わたしたちの罪のためにその苦難を受けられることが、イエス様にとっての洗礼なのです。わたしたちの罪を、この方が引き受けてくださったのです。そのことによって、十字架による赦しがわたしたちのものとなるのです。

わたしたちは、「洗礼を受ける」ということを思い違いしてはいけません。洗礼を受けることで救いが与えられるのではないからです。イエス様の十字架によって、わたしたちは誰もが救いに入れられているのです。それは、言うなれば「救われていることを信じましょう。そう信じられたとき、喜びの日々が与えられる」ということです。信じることで「救い」という対価が得られるのではないのです。神様に背を向けて生きてきた、神様に見捨てられて当然のわたしが、イエス様が十字架という洗礼を受けて下さったことで罪を赦された。このことを信じ、悔い改めて生きること。それがわたしたちが洗礼を受けることの意味です。そして、神の独り子であるイエス様と結ばれることによって、わたしたちも神の子とされるのです。

（2022・1・9 説教者：稲垣真実）